

会 議 録				
令和4年度第1回認知症施策事業推進委員会	日 時	令和4年6月8日(水) 午後7時～午後8時15分	場 所	市役所第2庁舎 801会議室
事務局	小金井市福祉保健部介護福祉課			
出席者	委 員	委員長 三澤 多真子(小金井市医師会) 副委員長 橋詰 雅志(小金井歯科医師会) 委員 田中 智巳(小金井市薬剤師会) 委員 菊池 里香(医療機関医療連携相談室担当者) 委員 林 絵美子(訪問看護ステーション) 委員 木村 利子(居宅介護支援事業所) 委員 森田 和道(介護保険サービス事業所) 委員 杉森 珠美(認知症家族会支援事業所) 委員 益田 智史(小金井市商工会)		
	事務局	認知症地域支援推進員 佐伯 良子 認知症地域支援推進員 杉森 珠美(兼任) 認知症地域支援推進員 作左部 靖子 認知症地域支援推進員 高橋 美樹 高齢福祉担当課長 平岡 美佐 介護福祉課主査 濱松 俊彦 介護福祉課包括支援係主任 石井 哲平		
傍聴の可否	◎ 可 ・ 一部不可 ・ 不可		傍聴者数	2人
傍聴不可・一部不可の場合の理由				
次 第				
1 開会				
2 議題				
(1) 委員自己紹介及び事務局出席者紹介				
(2) 会議録の作成方法について				
(3) 第8期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画(小金井市地域包括ケア推進計画)について				
(4) 令和3年度認知症施策事業の実績報告について				
(5) 令和4年度認知症施策事業の実施予定について				
(6) 認知症講演会について				
(7) その他				
3 閉会				

1 開会

2 議題

(1) 委員自己紹介及び事務局出席者紹介

(2) 会議録の作成方法について

全文を記録するものの、会議録の公表に当たっては市民への分かりやすさを考慮し、発言者の発言内容ごとの要点記録とすることに全会一致で決定

(3) 第8期小金井市介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画（小金井市地域包括ケア推進計画）について

（事務局）

資料1は、令和3年3月に策定した第8期介護保険・高齢者保健福祉総合事業計画の抜粋であり、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため直接の説明ができなかったため、本日説明する。本計画は市の高齢者福祉施策の根幹であり、原則全ての事業がこの計画に沿うような形で進められることが求められている。

人口については現在増加傾向だが、令和17年には4人に1人が高齢者となる見込みとなっている。高齢化率については、全国平均、東京都平均と比べるとやや低い傾向があるが、将来的には大きく上昇することが見込まれている。市内の要介護認定者数は、約5,500人で、全高齢者の2割程度の高齢者が認定を受けている。ただし、認定者数のうち半数程度の方が要支援1から要介護1のいわゆる軽度者となっており、軽度者の割合が高いことが本市の特徴となっている。認知症高齢者の日常生活自立度がI以上の方は、令和2年3月末現在で約4,000人で、平成29年と比較すると約400人増加している。特にIIb以上の方が約300人増えているのが特徴である。認知症施策の課題として、「認知症の症状がある又は家族に認知症の症状がある人がいる方」でも相談窓口を知っている方は50%と半数しかおらず、さらなる周知が必要であること、また、「自身に認知症の症状がなく、家族にも認知症の症状がある人がいない方」の中には認知症についてあまり関心がない方が9.6%と一定数おり、市民の理解を得るための取組を一層進める必要があることが挙げられている。

認知症施策の方向性と主な取組として、「認知症施策の推進と理解の醸成」、「認知症のケア・医療の充実」、「認知症の方と家族を支える地域づくり」の3点が挙げられており、それぞれに個別事業・重点取組事業が記載されている。

（三澤委員長）

意見・質問等はあるか。

（質問・意見等なし）

(4) 令和3年度認知症施策事業の実績報告について

(事務局)

資料2は、令和3年度末までの事業実績を取りまとめたものである。

5番の認知症検診は、令和3年度からの新規事業で、東京都の10分の10の補助金を活用し、小金井市医師会の協力をいただきながら実施したものである。令和3年度中に70歳から79歳になる約1万2000人に対し、「認知症安心ガイドブック」を送付し、認知症に係る理解促進を図るとともに、検診の案内を送付し、セルフチェックを実施した結果、一定の点数以上の方の中で受診を希望する方に対し、検診を実施した。116人の方に受診いただき、受診率は1%である。

7番と10番は認知症サポーター養成講座に関する項目で、特にキッズ認サポは従来から1校増え4校で実施し、合計725人の方に受講いただいた。

13番の認知症講演会は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため実施することはできなかったが、25番にあるように世界アルツハイマーデーに合わせての展示や、11月に開催したお元気サミット・介護みらいフェス合同展示会等で認知症に関する展示を行い、市民への普及啓発を図った。

14番のやすらぎ支援事業や15番の家族介護継続支援事業については、なかなか対面での実施が難しい中、電話による傾聴に切り替えながら実施した。

23番の認知症カフェは、令和2年度から認知症地域支援推進員（以下「推進員」という。）の努力により公設カフェを3か所開設し、実施している。これにより各包括圏域において認知症カフェが実施されており、令和3年度は新型コロナウイルスの影響で一部中止となっているが、39回、延べ327人の方に参加いただいている。

(三澤委員長)

意見・質問等はあるか。

(質問・意見等なし)

(5) 令和4年度認知症施策事業の実施予定について

(事務局)

資料3は、令和4年度に実施予定の事業と目標値、実施内容を記載している。

25番は新規事業で、「チームオレンジ設置に向けた検討」である。チームオレンジとは、できる範囲で手助けを行うという活動の任意性は維持しつつ、ステップアップ講座を受講した認知症サポーター等が支援チームをつくり、認知症の人やその家族の支援ニーズに合った具体的な支援につなげる仕組みである。令和元年6月に認知症施策推進大綱が関係閣僚会議にて決定されており、同大綱の中では政府の目標として令和7年度までに自治体におけるチームオレンジ設置率100%を目指しており、本市においても令和7年度までにチームオレンジを設置したいと考えている。については、

まずは本人・家族の支援ニーズの抽出も兼ねて、本人・家族が共に活動する時間を設け、ほかの家族や地域との交流を行う「一体的支援事業」を今年度実施したいと考えている。なお、運営にはステップアップ講座を受講したボランティア等に関わっていただき、チームオレンジ設置に向けた足がかりにしたいと考えている。

(推進員)

続いて、令和4年度の推進員の活動予定について報告する。

年間を通した取組として、推進員のワーキングを毎月開催し、情報交換や各事業の準備等を行う。また、市の担当者と連絡会を毎月実施する。

相談支援体制の充実として、認知症に関する個別対応をはじめ、認知症検診のフォロー、認知症初期集中支援事業については事例があり次第、担当医と連携を取りながら対応する。

認知症の理解促進として、認知症サポーター養成講座を年3回市報で募集し、定期開催する。加えて、要請に応じて各地域で随時開催する。また、小学校や中学校での開催も予定しているほか、市の職員向けにも開催する。認知症カフェも各地域で行っており、認知症予防通いの場も年2回行う。このように、地域で認知症についての取組を行い、早期に対応できる機会をつくっていく。

地域包括支援センター業務と兼務した体制で活動しているので、至らない点も多くあるが、地域の皆さんにも協力を仰ぎながら、認知症になっても安心して暮らせることを目指して活動していきたい。

(三澤委員長)

意見・質問等はあるか。

(質問・意見等なし)

(6) 認知症講演会について

(事務局)

令和元年度から認知症講演会を実施できていないが、今年度は認知症講演会の実施を予定している。11月に開催のお元気サミットの中で実施を予定しており、講師はまだ確定していない。認知症に造詣の深い医師による講演や若年性認知症に係る専門家による講演の実施を検討しているが、委員から意見等を伺いたい。

(三澤委員長)

意見・質問等はあるか。

(森田委員)

講師は専門家の方々の中から選び、話しいただくことが一番望ましいことだと思うが、その場に例えば当事者の方々に参加・発言いただける場を設けるのは難しいか。

(三澤委員長)

私もそれはすごく良い考えだと思うが、まず講師から決めてはどうか。講師はこの場で今日決めなければならないか。

(事務局)

今日この場で決定していただく必要はない。もし、こういった方が良いということであれば、事務局で数人ピックアップさせていただいて、改めて委員に提示する方法もある。

(三澤委員長)

承知した。

小金井の近くで認知症に造詣の深い医師というと、一番有名なのは多分杏林大学医学部付属病院の神崎教授かなと思う。あとは三鷹で認知症を専門に開業されている木之下先生がとても有名で、よく講演もなさっている。若年性認知症に関わる専門家というと、来島みのりさんがとても適任だと思う。ほかに何か意見等はあるか。

(益田委員)

認知症講演会は誰を対象にするのか。どういう人が来るのか。

(事務局)

広く市民の方ということで、特に対象等を設けずに講演会の周知は行っている。今回はお元気サミットの中でやろうと思っており、同イベント自体も広く若い方から高齢の方までを対象としたイベントとなっているので、対象もそういった方々になる。

(益田委員)

これまでの経験上、どのような人が主に来場されたか分かるか。

(事務局)

過去の開催実績では、高齢の方が多い印象である。確かな統計は今、手元にないが、参加している方は65歳以上の方が多いという印象である。

(益田委員)

聴きに来る方が認知症についての学びを必要とするような場合であれば、三澤先生がおっしゃるような専門家を呼んで医療的見地の話でも良いと思うが、地域で支える方等を対象にするのであれば、専門的なことを話されるよりも認知症に対する明るい話題や親しみを持てるような話をしても良いと思う。対象を定めた上で話を決めるのかなと思う。

(林委員)

結構何度かこのイベントに関わったが、平日の昼間開催なので、来場者は限られる。働いている方は難しいので、どうしても65歳以上の方が多くなってしまうと思う。

(三澤委員長)

必ずしも医師や専門家が話さなくても良いと思うし、どんな形でも良いと思うが、ほかに意見はあるか。市で何か案はあるか。

(事務局)

今のところ講師や内容等は白紙の状態である。

(三澤委員長)

承知した。

例えばあえて専門家を呼ぶのではなくて、当事者たちとサポートしている方とで対談するような形でも良いかもしれない。時間は1時間の想定か。

(事務局)

1時間半程度会場を押さえているが、1時間半必ずしも使用しなくても良い。

(三澤委員長)

1時間ずっと当事者に話していただくのは時間的につらいかもしれないので、例えば、前半専門の方や関わっている方が話をし、後半当事者が話をしたり、対談したりみたいな感じでも良いかもしれない。

(森田委員)

過去にお元気サミットの認知症に関してのフォーラムに参加した際、見に来られる方は一般の市民の方々が大半だが、会場の皆さんに意見を伺ったときに、認知症にならないためにどうしたら良いのか、認知症にならないようにどんな努力をしているか、認知症にならないのが一番良いことだというような意見が多数聞かれた。そういった方々に向けての構成とすると、専門的な見地の方からの話があって、その後でその先生が当事者の方々と対談なさっていただくという流れだと、来場者も納得いただけるし、良い雰囲気を作れると思う。

(三澤委員長)

来場者は高齢者が多いということだと、若年性認知症より普通の高齢者の認知症をターゲットにする方が良いかもしれない。当事者と普段から関わっており、予防等についても話していただくとする、専門家としては木之下先生が良いと思う。私も話を聴きに行ったことがあるが、すごく分かりやすいし、認知症になりやすい原因とされている12のことについても詳しく説明してくださったりしていた。認知症にならないためにはという趣旨に合うような話もいただけると思う。

当事者をどの方に登壇いただくか、やり方はどうするか等は、講師が決まればその方と相談していく形になると思う。

(木村委員)

サポートしている人の話も聴きたい。先生と当事者とサポートしている人の話を聴けたら分かりやすいと思う。

(三澤委員長)

それもとても良いと思う。

(杉森委員)

医師だけではなく、認知症本人や介護者、関わっている方たちに登壇してもらっても良いと思う。

過去に森田委員にもスライドを使って話をしていただいたこともあり、本人たちが活動している写真等もあり、視覚的に分かりやすかった。関わっている方たちの力はすごく大きいので、そういうものも大事にしたいと思う。

ただし、本人に登壇してもらうことは、これまで様々なイベントで推進員も考えてきたことがあるが、本人を見つけることがすごく難しい。地域包括支援センターは相談で通り過ぎていくだけの方が多い。普段からデイサービスやケアマネジャー、訪問看護の方等で、認知症になっても地域でこんなに楽しく生活できるということを伝えてくださるような方を知っているのだったら、探すところからお手伝いいただきたい。

(三澤委員長)

サポートしている方に登壇していただくとする、森田委員にお願いすることは可能か。

(森田委員)

もちろん引き受けたいとは思いますが、介護みらいフェスの担当となっており、対応が難しいかもしれない。

(事務局)

介護みらいフェスとお元気サミットは合同開催の予定になっている。2日間の日程なので、役割が重なってしまうと難しくなってしまうと思う。

(森田委員)

三澤先生の認知症の症状を抱える人への関わり方については我々もすごく参考にしながら日々仕事をしているし、今、名前が上がっている先生と知己を持っている上に、市内の実情も一番分かっていると思うので、三澤先生に登壇しても良いと思う。うちの利用者の誰かと一緒に参加することはできるだろうし、サポートしている側としてほかの事業者も参加いただけると思う。

(三澤委員長)

専門で話に慣れた先生がいらっしゃる、講師は私よりほかの先生の方が良いと思う。医師が2人登壇するとちょっと変な感じになってしまうので、私は司会等として参加させていただくと落ち着きが良いと思う。

日程が11月だと、外部の講師を押さえるとすると早めに決めた方が良いと思うが、このメンバーで話し合える機会があまりないと思うので、外部講師だけでも今日決められると良いと思う。

(林委員)

木之下先生の話をも聴いたことがあるので、ぜひお願いしたいと思う。

(田中委員)

認知症の予防等が来場者に一番関心があるといった話があったと思うが、講師を決めるに当たってメインテーマをしっかりと決めていかないと、頼む方も頼みづらいと思う。全体で1時間程度となると、1人20分くらいで講演いただくような形になるのか、それとも木之下先生メインで話していただいて、ほかの方は約10分ずつ話していただくような形になるのか。著名な先生にお願いするとなると、ある程度決めておかないとお願いしづらいと思う。

(森田委員)

私は先程、過去の介護みらいフェスでの参加者の意見として、予防の話を聴きたい方が多いと発言したが、サービス事業者側（支援者側）としては、認知症になってもサポートや仕組みがあれば、みんなに支えられながらその人らしい生活を送ってほしいといった話に持っていけると良いと思う。

(三澤委員長)

認知症全般と、認知症にならないためにはという話を専門の先生に30分くらい話していただいて、その後にその先生と当事者と支援者の3人が並んで登壇して対談みたいな形にすると形的に良いと思う。聴いている方も座学の後に、実際の話も聴けて良いと思う。

(田中委員)

パネルディスカッションみたいな感じで3人に登壇していただいて話を進めるとなると司会を三澤先生にお願いするという形になるか。

(三澤委員長)

そのとおりである。

(田中委員)

承知した。具体的な形が今の話で見た気がする。

(菊池委員)

今の形で私も賛成だが、認知症検診が始まっており、市も早期発見・早期対応に努めているので、そういう内容も絡めて話していただけると良いと思う。

(三澤委員長)

承知した。

では、他に意見がなければ、専門の方が話をして、その後可能であれば当事者や支援者と対談するような形式でよいか。

(「異議なし」と声あり)

(三澤委員長)

承知した。

では、講師は木之下先生でよいか。受けていただけるか分からないが、依頼してみるといいことでは。

(「異議なし」と声あり)

(三澤委員長)

1 1月の何日に実施するのか。

(事務局)

1 1月9日と10日の2日間会場を押さえているが、まだどこに何の講演を入れるかというのは調整していないので、基本的には決まったイベントから日程を押さえていけば良いと考えている。

(三澤委員長)

時間は何時からか。

(事務局)

午前の部と午後の部で、おおむね午前10時からとおおむね午後2時からを予定しているが、講師の都合やイベントの内容によって時間調整は可能である。

(三澤委員長)

承知した。

私から木之下先生に声掛けした方が良いか、それとも市から声掛けを行うか。

(事務局)

どちらの形でも良いが、三澤先生から連絡いただいた上で市から改めて依頼した方が良いと思う。

(三澤委員長)

では、まず私から声掛けしてみて、日程が大丈夫であれば、その後は市から正式な依頼をお願いします。

(事務局)

承知した。

(7) その他

(事務局)

次回委員会は、令和5年2月22日の開催を予定している。

(三澤委員長)

提示の日程でよいか。

(「異議なし」と声あり)

(三澤委員長)

ほかに委員から何かあるか。

(益田委員)

令和4年度の事業実施予定に係る資料に「チームオレンジの設置に向けた検討」というものが9月に入っているが、この検討はどのように行うのか。

(事務局)

本人と家族に対する支援を現状は別々に行っており、それを一体的に行う一体的支援事業というものがある。それを実施することでチームオレンジの設置につながっていくのではないかと考えており、今年度1回、アルツハイマーデーに合わせて9月に実施したいということで予定している。

(益田委員)

具体的な実施内容は、次回の委員会で話があるのか。

(事務局)

お見込みのとおりである。

(益田委員)

承知した。

(事務局)

1点確認させていただきたい。講演の中で当事者や支援者については、改めて推進員や森田委員等に別途相談し、委員に提案するという形でよいか。

(三澤委員長)

木之下先生が受けてくれることになったら、そこも含めて木之下先生と相談していただければと思う。

(事務局)

承知した。

(林委員)

キッズ認サポを特定の学校だけでなく、市内の小中学校全校で受講いただくといった方向にはならないのか。

(事務局)

市としては全ての小中学校で実施したいという思いはある。1校でも実施校が増やせるよう努めているが、学校ごとにカリキュラムの違い等があり、相談はするが学校の都合で難しいという実情である。少しでも増やしていけるように継続して努力していきたい。

(林委員)

承知した。

3 閉 会